

エンジョイ！軟式野球フェスティバル 2025 競技規則等について

本大会は、「2025 年度公認野球規則」および同規則に基づき公益財団法人全日本軟式野球連盟が作成した「2025 年度競技者必携」に定める規程細則、競技運営に関する注意事項ならびに競技に関する連盟特別規則等を準用し、その他スポーツ少年団独自のルールにて実施する。詳細については下記のとおりとする。

1. 競技規則

(1) ベンチに入れる人員(大会実施要項「9.参加資格」「10.参加者およびチーム編成」参照)

① 団員 20 名以内 背番号 0 番～99 番
※代表団員(主将)は背番号 10 番

② 指導者

【必置】

- ・ チーム代表者 1 名 私服可
- ・ 監督 1 名 背番号 30 番

※ スポーツ少年団指導者章および大会所定のリボンを着用する。

【任意】

- ・ コーチ 2 名以内 背番号 28・29 番

※ 大会所定のリボンを着用する。

③ スコアラー 1 名

※ 団員以外とし、記録に関すること以外(シートノックの補助やマネージャー行為等)の行為は認めない。

※ 服装は私服とし、大会所定のリボンを着用する。

④ 熱中症対策スタッフ 2 名以内

※ 団員以外とし、発行されたパスを携行すること。

(2) 用具、装具等

① 打者用ヘルメットは、S・G マークのついた全日本軟式野球連盟公認のものを 7 個以上用意し、打者、次打者、走者および走塁指導者(ベースコーチ)は、全員両側にイヤーフラップが付いたものを着用すること。

② 捕手は、全日本軟式野球連盟公認のレガース・プロテクター、S・G マークのついた捕手用ヘルメット・マスクを着用すること(捕手用ヘルメットはマスクが分離したものを使用)。また、ファウルカップを必ず着用すること。

③ バットは、全日本軟式野球連盟公認(JSBB マーク入り)の物を使用すること。なお、木製については公認制度を適用しない。

④ 安全面を考慮し、一般用バットのうち、打球部にウレタン、スポンジ等の素材の弾性体を取り付けたバットの使用を禁止する。なお、一般用バットであっても、上記以外の木製・金属製・カーボン製・複合(金属/カーボン)バットについては、使用制限は行わない。

⑤ バットは改造、加工したものは使用できない。ただし、後付けフレアグリップの使用については、専用テープ等で完全に固定・被覆されたなだらかな形状のものであれば使用を認める。

⑥ 素振り用の鉄棒(鉄パイプを含む)、バットリングは使用してはならない。

⑦ 同一チームの監督、コーチ、団員は、同色、同形、同意匠のユニフォーム・アンダーシャツ・ストッキング・帽子を着用すること。

⑧ 代表団員(主将)は、キャプテンマーク「C マーク」をユニフォームシャツの右袖または前面に限り掲出できる。

⑨ 金属スパイクの使用を禁止する。

(3) 応援団等のマナー

- ① 球場での道具(太鼓、トランペット等)を使用しての応援は一切禁止する。
- ② 投手が投手板に触れて投球位置についたら、投手の動揺を誘うような大きな声を発しないこと。
- ③ ベンチ内の大人はいかなる状況であっても、選手を委縮させるような言動を禁止する。
- ④ 自チーム、相手チームおよび審判員に対する野次・ブーイング等は行わないこと。
- ⑤ その他、目に余る応援・試合進行の妨げになる応援・近隣住宅の迷惑となる応援等については本部、審判団より嚴重注意を行う。
- ⑥ 個人情報保護の観点から、撮影した写真や動画の取扱い(SNS 等への投稿)には十二分に注意すること。また、試合会場でのストロボ等を使用しての撮影など、大会の運営を妨げる行為は禁止とする。

2. 試合運営

(1) 打順表の提出

- ① その日の第 1 試合のチームは、試合開始予定時刻の 30 分前までに打順表(登録された選手全員を記入したもの)1 部(6 枚複写)を大会本部へ提出する。打順表は大会主催者側が用意したものを使用し、出場する選手全員を記載のうえフリガナをふる。なお、提出にあたっては、監督および代表団員(主将)2 名が共に大会本部へ提出し、登録選手の照合を受けて攻守の決定を行う。
- ② 試合が 2 試合以上続けて行われる場合、第 2 試合以降のチームは、前の試合の 3 回終了時、または試合開始 45 分後のいずれか早い段階で前項と同様に打順表を提出することとし、3 回終了時には攻守の決定を行う。

(2) 試合開始予定時刻に関係なく、前の試合が早く終了した場合、次の試合開始を早める場合がある。

(3) 試合開始予定時刻になっても会場に到着しないチームは、原則として棄権とみなす。

(4) 熱中症予防の点から、暑さ指数となる WBGT(Wet-Bulb Globe Temperature)が 31℃以上の場合には試合を開始しない。

参照:<https://www.japan-sports.or.jp/medicine/heatstroke/tabid523.html>

(日本スポーツ協会 HP)

※その他の熱中症対策については別紙「暑熱対策について」参照

(5) シートノックについて

- ① 試合前のシートノックは 5 分間とし、後攻チームから行う。ノッカーも選手と同様のユニフォームを着用し、捕手はプロテクター、レガース、捕手用ヘルメット、ファウルカップを着用すること。なお、シートノック時の補助員はヘルメットを着用すること。

- ② 大会運営上、シートノックを行わずに試合を開始することがある。

(6) サイドノックについて

ベンチ前でのサイドノックを認める。なお、ノッカーにボールを渡す選手や野手からの送球をノッカーの近くで捕球する選手は必ずヘルメットを着用すること。

(7) 次の試合の先発バッテリーは、攻守決定後に球場内のブルペンを使用することができる。

(8) 球場内ではトスバッティングのみ認めることとし、フリーバッティング(ハーフバッティング、ロングティーバッティング含む)は認めない。

(9) ベンチ内での電子機器類(携帯電話、パソコン等)の使用を禁止する。ただし、電子スコア記録用として 1 台の使用を認める。

(10) ベンチ内での記録用カメラ等の使用を禁止する。

(11) 指示用メガホンは、ベンチ内に限り 1 個の使用を認める。

(12) 攻守交代時に最後のボール保持者は、投手板にボールを置いてベンチに戻る。

(13) 試合中、監督はグラウンドに入って指示を与えることができる。

(14) 試合のスピード化に関する事項

- ① 試合の進行状況によっては、タイムを制限することもある。
- ② 投手の準備投球数は球審の指示により行う。
- ③ 攻守交代は駆け足で行う。また、監督のマウンドへの行き帰りは小走りで行う。
- ④ 投手は、必ず投手板について捕手のサインを見る。
- ⑤ 次打者は、必ず次打者席へ入り、投手が投球姿勢に入ったら素振りをしてはならない。
- ⑥ 打者は、みだりにバッターボックスを外さない。サインもボックス内で見ること。
- ⑦ 内野手間のボール回しを制限することがある。
- ⑧ 代打、代走の通告は氏名と共に「代打者」「代走者」の背番号を球審に見せて行う。

(15) 雨天の場合

- ① 日程の都合上、雨天の場合でも球場が使用可能な場合は試合を行うことがある。
- ② 大会本部で試合実施可否の判断を行う。大会本部からの連絡に留意すること。

(16) ファウルボールの処理

- ① ファウルボールの処理については、両チーム選手が行う。
- ② ベンチ前から外野方向へのボールは両ベンチのチーム選手が処理し、バックネット前のボールは攻撃チームの選手が処理しボールボーイ・ボールガールに返すこと。

(17) 試合中のボールボーイ・ボールガール(グラウンド内)は、各チームにおいてその任にあたる。

3. 競技に関する特別規則

(1) 試合は 6 回戦とする。ただし、暗黒、降雨等で 6 回完了まで進まなくとも、5 回を終了すれば試合成立とする。

(2) 健康維持を考慮し、試合時間が 1 時間 15 分を経過した場合は、均等回完了をもって試合終了とする。

なお、WBGT が 31℃以上となった場合等で試合が中断した場合、中断時間は試合時間に含まないものとする。

(3) 勝敗の決定方法について

以下のいずれかにより、勝敗が決しない場合、タイブレークは行わず、各チーム団員 9 名による抽選によって勝敗を決定する。

- ① 均等回完了時、同点の場合
- ② WBGT31℃以上により試合を開始できず、中止となった場合
- ③ 「熱中症特別警戒アラート」により試合が中止となった場合
- ④ 悪天候等の特別な事情により試合開始前に中止となった場合

※②③④については、下記(6)での対応により判断する。

(4) 熱中症予防の点から、試合中に危険な気温となることが予想されるときには、主催団体間で協議のうえ、1 試合あたりのイニング数を減らす等の対応をとる場合がある。

(5) 本大会決勝戦および交流試合については、(3)を適用せず、同点の場合は勝敗をつけない。

(6) 5 回完了もしくは試合時間が 1 時間 15 分を経過する前に暗黒、降雨等で試合続行が困難となった場合は、大会本部で試合終了・継続試合・特別継続試合・大会中止の判断を行う(※)。大会本部からの連絡に留意すること。

※ 継続試合とは、その日中に他の球場で試合を続行すること。

※ 特別継続試合とは、その日の最終試合が試合続行できず、翌日の第 1 試合に先立って試合を続行すること。

※ 大会中止とは、予定している日程で大会が行えなくなった場合のこと。

(7) 得点差のコールドゲームは適用しない。

(8) 原則として、ダブルヘッダー(1 日 2 試合)を行わない。ただし、降雨等により大会運営上やむを得ないと判断した場合は、1 日 2 試合行うことがある。

(9) 指名打者ルールを使用することができる。ただし、二刀流選手を採用しない。

- (10) 投手の 12 秒および 20 秒ルールについて
- ① 投手は、捕手、その他の内野手または審判員からボールを受け取り打者に面した後、走者がいない場合には 12 秒以内、走者がいる場合には 20 秒以内に投球動作を開始しなければならない。違反した場合、球審はただちにボールを宣告する。
 - ② 12 秒を経過したとき、または 20 秒を経過したとき、二塁塁審(三塁塁審)は「タイム」を宣告し、頭上で大きく手首を叩いて球審に 12 秒、20 秒が経過したことを知らせる。
 - ③ タイムの宣告にもかかわらず投手が投球した以後のプレイは無効とする。投球数はカウントする。
- (11) 本大会の趣旨に鑑み、より多くの選手に出場機会を与えること、また、選手の熱中症や疲労による疾病予防を目的に、以下のとおりリエントリー制度を適用する。
- ① 先発メンバー 9 名(指名打者制を利用する場合 10 名)および途中出場した選手を含み、1 度に限り再出場可能とする。
 - ② 再出場の回数は、選手 1 人に対し 1 度までとする。
 - ③ 再出場する場合は、打順は元の打順とする。守備の変更は可能だが、投手・捕手が再び投手か捕手に戻る場合、ブルペンで投球練習を行う等、障害予防に努めること。
- (12) 団員(選手)が安全に安心して健康で野球を楽しむことを目的として、一人の投手が 1 日に投球できる数を 70 球以内(4 年生以下は 60 球以内)に制限する。ただし、試合中に 70 球に達した場合は、その打者の打撃中に攻守交代となるか、打撃が完了するまで投球できる。
- (13) 抗議のできる者は、監督または当事者のいずれか 1 名でなければならない。
- (14) 監督が投手のところへ行く回数の制限
- ① 監督が 1 試合に投手のもとに行ける回数は 3 回以内とする。
 - ② 監督が同一イニングに同一投手の所へ 2 度行く、もしくは行ったとみなされた場合は、投手は自動的に交代しなければならないルールは適用しない。
 - ③ 捕手または内野手が 1 試合に投手の所へ行ける回数は 3 度以内とする。
 - ④ 捕手(野手)が投手のところへ行った場合、そこへ監督またはコーチが行けば双方 1 回として数える。
- (15) 投手は変化球を投げることを禁止する。変化球を投げた場合はペナルティを科す。
- (16) 守備の時間が長い場合(概ね 20 分)には健康維持を考慮し、審判員の判断で給水タイムを設けることとする(試合時間にはカウントしない)。

4. その他

本紙に記載の競技規則等によらない事項が生じた場合の対応については、主催団体間で協議し、決定するものとする。